

令和2年度
全国学力・学習状況調査

解説資料

児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた
学習指導の改善・充実に向けて

中学校 国語



令和2年7月
国立教育政策研究所
教育課程研究センター

目 次

令和2年度 全国学力・学習状況調査 解説資料について	1
I 中学校国語科の調査問題作成に当たって	5
II 調査問題一覧表	9
III 調査問題の解説（出題の趣旨，解説，解答類型等）	11
1 スピーチをする（書道パフォーマンス）	12
2 説明的な文章を読む	20
3 俳句を創作する	28
4 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	33
IV 解答用紙（正答（例））	39
V 点字問題（抜粋）	43
VI 拡大文字問題（抜粋）	51

令和2年度 全国学力・学習状況調査 解説資料について

◆ 目的

本資料は、令和2年度全国学力・学習状況調査の実施後、各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるように作成したものです。

◆ 特徴

「教科に関する調査」の各問題について、学習指導の改善・充実を図るための情報を盛り込んでいます。

「教科に関する調査」の各問題について、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型、正答や予想される解答の解説、学習指導の改善・充実を図るための情報等を記述しています。

全ての先生が、学習指導の改善・充実に活用できるものを目指して作成しています。

本調査は、小学校においては第5学年まで、中学校においては第2学年までに、十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を出題していますので、調査の対象学年だけではなく、全学年を通じた学習指導の改善・充実を図るための参考とすることができます。各問題の「学習指導要領における領域・内容」には、該当する学年を示していますので、学校全体で組織的・継続的な取組を展開する際に活用できます。

各学校等において、調査問題を活用できるように作成しています。

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、全国学力・学習状況調査としての調査は実施しないこととしましたが、各学校や教育委員会等において、調査問題の活用を通じて、日々の学習指導の改善・充実を図ることができるように作成しています。

一人一人のつまずきが見えるように「解答類型」を設けています。

本調査では、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理した「解答類型」を設けています。

「解答類型について」で、つまずきの分析ができるように解答類型の説明をしています。正誤だけではなく、一人一人の解答の状況（どこでつまずいているのか）等に注目して、学習指導の改善・充実を図ることができます。

関連する過去の資料も活用できるように作成しています。

関連する過去の調査の解説資料や報告書等の該当ページも記載しています。

学習指導の改善・充実を図る際は、これらの資料も併せて活用すると一層効果的です。

※過去の解説資料・報告書等は、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。

(<https://www.nier.go.jp/kaihatu/zenkokugakuryoku.html>)

◆ 本資料の活用にあたって

I 調査問題作成にあたって

調査問題作成の基本理念、問題作成の枠組みについて解説しています。

II 調査問題一覧表

問題の概要、出題の趣旨、関係する学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式を一覧表にまとめています。

Ⅲ 調査問題の解説

調査問題について、出題の趣旨、解説（学習指導要領における領域・内容、解答類型）等を記述しています。（問題によっては、記述のない項目もあります。）

調査問題を縮小して掲載しています。
※著作権の都合により一部を省略しているものがあります。

1. 出題の趣旨

問題ごとに出題の意図、把握しようとする力、場面設定などについて記述しています。

2. 解説

趣旨

問題ごとの出題の意図、把握しようとする力などを示しています。

■学習指導要領における領域・内容

調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における領域・内容を示しています。

■評価の観点

問題に関する評価の観点を示しています。

解答類型（下欄の*を参照）

児童生徒一人一人の解答状況を把握することができるように、問題における解答類型を示しています。

※図はイメージです。

教科名

問題画像

1. 出題の趣旨

.....

2. 解説

設問

趣旨

.....

■学習指導要領における領域・内容

【第○学年】

■評価の観点

.....

解答類型

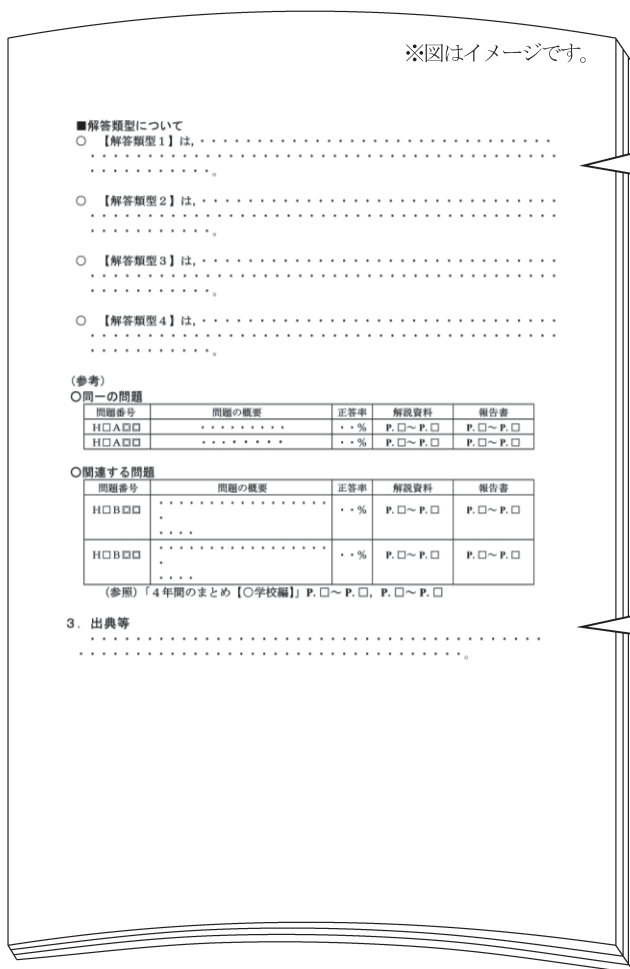
問題番号	解答類型	正答
<input type="checkbox"/>	1	<input checked="" type="checkbox"/>
	2	
	3	
	4	
	99	
	上記以外の解答	
	0	
	無解答	

* 児童生徒一人一人の解答状況を把握するために

<解答類型> 児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。解答例を示すとともに、「解答類型について」の解説を加えていますので、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答> 「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答
「○」…問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

<類型番号> 類型 1～38（最大）… 正答・予想される解答
（複数の類型が正答となる問題もある）
類型 99 … 「上記以外の解答」
（類型 1～38 までに含まれない解答）
類型 0 … 「無解答」（解答の記入のないもの）



■解答類型について
 予想される解答から、身に付いている力や考えられるつまずき等を記述しています。

(参考)
 過去の関連する問題，解説資料，報告書等を記載しています。

3. 出典等
 著作物からの出題の場合に，出典及び著作権者等について示しています。また，問題作成に当たって参考としたものについても示しています。

IV 解答用紙（正答（例））

調査問題の解答用紙に正答（例）を記述したものを掲載しています。

V 点字問題（抜粋）

点字問題の一部を，当該問題の解答類型及び作成に当たって配慮した点などとともに掲載しています。

VI 拡大文字問題（抜粋）

拡大文字問題の一部を，当該問題の通常問題及び作成に当たって配慮した点などとともに掲載しています。

※本資料では，以下の資料については略称を用いています。

資料		略称
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」		「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」		「平成○年度【○学校】報告書」

I 中学校国語科の調査問題作成に当たって

中学校国語科の調査問題作成に当たって

1 調査問題作成の基本理念について

「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成29年3月）では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」としている。

平成29年3月に公示された中学校学習指導要領（平成29年告示。以下「新学習指導要領」という。）は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。

平成31年度以降の調査問題では、こうした新学習指導要領の考え方への各教育委員会や各学校の理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題を構成することとした。

なお、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成18年4月）では、具体的な調査問題の作成に当たって、「調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点が重要である」としていることにも留意する必要がある。

以上の点等を踏まえ、本調査の調査問題は、新学習指導要領の考え方、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、現行の中学校学習指導要領（平成20年告示。以下「学習指導要領」という。）に示された国語科の目標及び内容等に基づいて作成することを基本とした。

2 調査問題作成の枠組み

（1）領域等と評価の観点について

学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選した。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

※ 「話すこと・聞くこと」の領域については、生徒が実際に話したり聞いたりするような調査を行うことが難しいため、場面設定・状況設定などを工夫して、話す・聞く活動にできるだけ近づけた出題となるようにした。

さらに、学習指導要領の総則「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」に示されている以下の点にも配慮した。

- 各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。
- 各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。
- 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。
- 各教科等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。
- 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

評価の観点については、国語科で行われている評価の五つの観点を用い、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」とした。なお、「国語への関心・意欲・態度」については、主に質問紙調査によってみることにしている。

(2) 問題形式について

問題の形式は、選択式、短答式、記述式の3種類としている。

記述式の問題では、複数の考え方、答え方があるものなどについて出題している。

◆ 点字問題、拡大文字問題、ルビ振り問題の作成について

本調査では、視覚障害等のある児童生徒及び日本語指導が必要な児童生徒等に配慮した調査問題（点字問題、拡大文字問題、ルビ振り問題）を作成している。

点字問題では、全体を点訳するとともに、点字による図版等の認知に伴う負担等を考慮し、図版等の情報の精査（グラフを表にしたり、記述による説明に替えたりするなど）を行ったり、出題の趣旨を踏まえつつ代替問題を作成したりするなどの配慮を行っている。

拡大文字問題では、対象となる児童生徒の見え方やそれに伴う負担等を考慮し、文字や図版等を拡大するとともに、文字のフォントや図版等の線の太さ・濃さ、コントラスト、レイアウト等を変更するなどの配慮を行っている。

II 調查問題一覽表

調査問題一覧表 【中学校国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式		
			聞話	書	読	特 伝 質 的 な 言 語 文 化 と 国 語 項 目	関 心 ・ 語 意 欲 ・ 態 度 の	話 す ・ 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力	知 言 識 語 ・ に 理 解 し て 能 力	選 択 式	短 答 式
1	一 動画の活用の仕方について説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器などを効果的に活用した話し方について理解する	2ウ					○			○		
	二 行書で書かれた「桜」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する			1(2)イ					○	○		
	三 卒業生から学ぶ会の最後に述べるお礼の言葉を書く	自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	1イ			○	○						○
2	一 「固定観念を異なる視点から見ること」について、本文中に示されている具体例として適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を捉える			1イ				○		○		
	二 本文中の「さえ」と同じ意味で用いられている用例と、その意味を選択する	助詞の働きについて理解する			2(1)イ(ロ)					○	○		
	三 「逆に」について、何と何が「逆」なのかを説明したものとして適切なものを選択する	文章の展開に即して内容を捉える			1イ				○		○		
	四 図に当てはまる言葉の組合せとして適切なものを選択する	文章の内容を捉え、書き手の考えを理解する			1イ				○		○		
3	創作している俳句に入れる言葉を選択し、その言葉を選んだ理由を書く	自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書く		2ウ			○	○					○
4	一① 漢字を読む（震えて）	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(ワ)					○	○		
	一② 漢字を読む（支度）				2(1)ウ(ワ)					○	○		
	一③ 漢字を読む（吹いて）				2(1)ウ(ワ)						○	○	
	二① 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（よささうな）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む			1(1)ア(ワ)					○	○		
	二② 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（みる）				1(1)ア(ワ)					○	○		
	三 動作をしている人（もの）が異なるものを選択する	文の成分の照応について理解する			2(1)イ(ウ)					○	○		

Ⅲ 調査問題の解説

（出題の趣旨，解説，解答類型等）

国語 1 スピーチをする（書道パフォーマンス）

1 第一中学校の三年生は、卒業生から学ぶ会を開いています。その中で、高校生の橋本さんが、書道パフォーマンスについて動画を聞いて話しています。次の「橋本さんの話」・「場面②で映している画面」・「場面③で映している画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。



【橋本さんの話】

場面①
皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する書道部で行っている書道パフォーマンスの魅力についてお話します。書道パフォーマンスでは、複数のメンバーで一つの作品を書き上げます。これが、書道パフォーマンスの魅力だと私は思います。
早速ですが、四月の新生活歓迎会で私たちが行った書道パフォーマンスの様子をご覧ください。

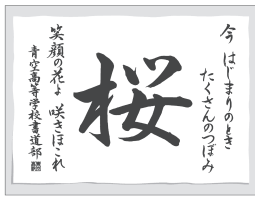
書道パフォーマンスの動画を途中で視聴する。

【場面②で映している画面】

場面②
ここで一度止めます。書道パフォーマンスでは、このように教室の半分くらいのとても大きな紙を使います。このとき私は、真ん中の文字を担当しました。私が使っている筆は墨を吸うとかなりの重さになり、文字を書くのがとても大変です。他のメンバーも皆、それぞれ担当する文字に集中し、体全体を使って書いています。それでは、私たちの動きに注目して、作品が完成するまでの様子をご覧ください。

書道パフォーマンスの動画を最後まで視聴する。

【場面③で映している画面】

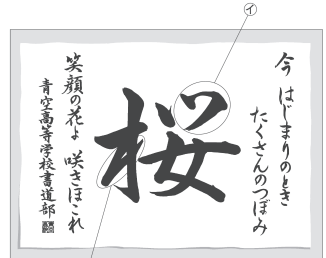


場面③
いかがでしたか。今映し出されている作品の言葉は、メンバーで話し合い、新入生を花のつぼみだとえ、笑顔の花が咲くことを願って選びました。それから、一つの作品として文字の調和をとることを大切にしました。メンバー五人が、それぞれ自分の書きたいように書いていて、よい作品にはなりません。そのため、中学校の授業で学んだ行書の特徴を確認しながら、何度も練習しました。
このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、書道パフォーマンスの魅力が伝わり、興味をもってもらえたらうれしく思います。

一 橋本さんの動画の活用仕方について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 聞き手に動画の内容と同じ動作をしてもらうために、動画を静止させたり流したりして話している。
- 2 聞き手に注目してほしい内容を説明するために、必要な場面を動画を静止させて話している。
- 3 聞き手に言葉では表現しきれない内容を伝えるために、一度示した場面を繰り返し流して話している。
- 4 聞き手に自分の話に集中してもらうために、内容に応じてところで画面の映像を消して話している。

二 場面③に「線部（中学校の授業で学んだ行書の特徴）」がありますが、次の○で囲まれた部分の①②の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。



- 1 ① 筆順の変化 ② 点画の連続
- 2 ① 点画の省略 ② 直線的
- 3 ① 点画の省略 ② 点画の連続
- 4 ① 筆順の変化 ② 直線的

三 この会の最後に、第一中学校の生徒がお礼の言葉を述べます。あなたなら、橋本さんに対してどのように述べますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 橋本さんへのお礼の言葉を実際のように書くこと。

条件2 橋本さんの伝えたいことを取り上げて、自分がそれをどのように受け止めたのかが分かるように具体的に書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--	--	--

1. 出題の趣旨

- ・ 資料や機器などを効果的に活用した話し方について理解すること
- ・ 行書の特徴を理解すること
- ・ 自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すこと

「話すこと・聞くこと」の学習では、小学校での学習を踏まえた上で、何のために話したり聞いたり話し合ったりするのかという意識を常にもち、場面や状況を考えた話し方や聞き方を身に付ける必要がある。スピーチなどの言語活動を行う際には、話し手は、取材した材料や具体的な事実、自分の考えや意見などをどのように配列して話の全体を構成するかを考えたり、文末表現などにも注意して事実と意見との関係を明らかにして話したりすることが大切である。さらに、聞き手の人数や立場、年齢構成、会場の広さ等を踏まえて話し方を工夫することも大切である。話の要点を明らかにし聞き手に分かりやすくするためには、資料や機器などを活用して話すことも考えられる。その際、グラフや表、写真や図など、どのような資料を用いると聞き手の理解を深めることができるのかを考え、必要に応じてコンピュータなどのICT機器を活用して話すことも効果的である。その上で、国語科で培ったこれらの言語能力を各教科等の学習や生活の中で生かそうとする意識をもち、自らの実践へとつなげることが重要である。

本問では、中学生に対して、卒業生である高校生がスピーチを行う場面を設定した。動画を効果的に活用した話し方について考えたり、相手の話に対するお礼の言葉としてふさわしい内容や言葉遣いで話したりすることに加え、話の中に出てきた「中学校の授業で学んだ行書の特徴」について考えることを求めている。

なお、設問二は、平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⁹六2（正答率 63.9%）において、行書の特徴についての理解に課題が見られたことを踏まえて出題したものである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。

〔第2学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。

2. 解説

設問一

趣旨

資料や機器などを効果的に活用した話し方について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 A 話すこと・聞くこと

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。 《話すこと》

■評価の観点

話す・聞く能力

解答類型

問題番号	解 答 類 型		正答	
①	—	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

○ 【解答類型1, 3, 4】は、資料や機器などを効果的に活用した話し方について考えることに課題がある。橋本さんは、書道パフォーマンスについて、聞き手に注目してほしい内容を説明するために、必要な場面で動画を静止させて話していることが理解できていないものと考えられる。

なお、選択肢1, 3, 4については、目的や場面によっては、このように動画を活用して話す場合もある。

○ 【解答類型2】は、資料や機器などを効果的に活用した話し方について理解している。自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるためには、動画を静止させて話すことや、静止させずに一気に流して話すことが効果的な場合がある。目的や場面に応じて資料や機器などの活用を工夫することが大切である。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H26A ¹ ー	フリップの効果を説明したものとして適切なものを選択する	78.9%	P. 14～P. 16	P. 24～P. 25
H27B ¹ ー	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	73.6%	P. 56～P. 62	P. 62～P. 66
H27B ¹ ニ	フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する	87.5%	P. 56～P. 62	P. 62～P. 66
H27B ¹ 三	演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く	56.6%	P. 56～P. 62	P. 62～P. 66
H28A ¹ ニ	絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する	78.5%	P. 14～P. 17	P. 24～P. 28
H29A ² ー	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	88.1%	P. 16～P. 18	P. 28～P. 30
H29B ² ー	スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する	85.7%	P. 63～P. 67	P. 76～P. 81

設問二

趣旨

行書の特徴を理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)

イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

解答類型

問題番号	解 答 類 型			正答
①	二	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型 1, 2, 4】は、行書の特徴についての理解に課題がある。㉞の部分「点画の省略」であることや、㉜の部分「点画の連続」であることが理解できていない。直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止めや払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。
- 【解答類型 3】は、行書の特徴について理解している。「桜」は、楷書で書くと「桜」であることを踏まえ、㉞の部分と㉜の部分の特徴を捉えることができている。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H29A ⁹ 六2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	63.9%	P. 44～P. 54	P. 54～P. 66

4 ㉞ 筆順の変化

3 ㉝ 点画の省略

2 ㉜ 点画の省略

1 ㉛ 筆順の変化

六 書写の時間に「和」という字を次のように行書で書きました。これを見て、あとの問いに答えなさい。

2 「和」の ○ で囲まれた部分の㉞と㉜の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 (略)

4 ㉞ 筆順の変化

3 ㉝ 点画の省略

2 ㉜ 点画の省略

1 ㉛ 筆順の変化

六 書写の時間に「和」という字を次のように行書で書きました。これを見て、あとの問いに答えなさい。

平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⁹六2では、選択肢1を選んだ生徒が18.5%であり、㉞の部分「点画の省略」であることが理解できていないなどの課題が見られた。

設問三

趣旨

自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

[第1学年] A 話すこと・聞くこと
 イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 《話すこと》

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度
 話す・聞く能力

解答類型

問題番号	三	解 答 類 型	正答	
①	三	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① お礼の言葉としてふさわしい内容を書いている。 ② お礼の言葉としてふさわしい言葉遣いで実際に話すように書いている。 ③ 橋本さんが伝えたいことについて、以下のa, bの両方またはいずれかの内容を取り上げて書いている。 a メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることが書道パフォーマンスの魅力であること。 b a以外の【橋本さんの話】の内容。 ④ 橋本さんの伝えたいことを自分がどのように受け止めたのかが分かるように具体的に書いている。		
		(正答例)		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力がよく分かりました。私たちも、力を合わせて学校行事などに取り組み、充実感を味わいたいです。 ・ 橋本さんの話をお聞きして、何度も練習をする大変さや、協力して作品を作り上げる楽しさを感じました。私も橋本さんのように、仲間と一緒に部活動を頑張っていきたいと思います。 		
		1	条件①, ②, ③a, ④を満たして解答しているもの * ③bを同時に満たして解答しているものを含む。	◎
		2	条件①, ②, ③b, ④を満たして解答しているもの (例) <ul style="list-style-type: none"> ・ 橋本さんのお話から、書道パフォーマンスでは非常に大きな紙を使うことが分かって驚きました。高校生になったら私も書道部に入りたいと思います。ありがとうございました。 ・ 今日はありがとうございました。新入生に笑顔の花が咲くことを願って「桜」という言葉を贈ったのですね。とてもすてきな言葉だと思いました。 	○
		3	条件①, ②, ③を満たし, 条件④を満たさないで解答しているもの	
4	条件①, ②, ④を満たし, 条件③を満たさないで解答しているもの			
5	条件①, ③, ④を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの			

	99	上記以外の解答	
	0	無解答	

■解答類型について

- 本設問では、橋本さんに対して、話の構成に注意しながらお礼の言葉を述べることを求めている。お礼の言葉として相手に分かりやすく伝えるためには、橋本さんの伝えたいことを取り上げ、自分がそれをどのように受け止めたのかが分かるように具体的に述べることが大切である。橋本さんは、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることが書道パフォーマンスの魅力であると話している。お礼の言葉を述べる際に、橋本さんの話から、書道パフォーマンスの道具などについて取り上げることも考えられるが、橋本さんの話の要点を捉えて話を構成することで、よりお礼の言葉としてふさわしくなる。このことについては、小学校第3学年及び第4学年で「A 話すこと・聞くこと」(1)エの「話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。」などに係る学習を既に行っている。また、適切な敬語を用いて話すなど、お礼の言葉としてふさわしい言葉遣いで話すことも重要である。

【解答類型1】は、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができています。橋本さんの話から、「メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることが書道パフォーマンスの魅力であること」を取り上げ、自分がそれをどのように受け止めたのかが分かるように話を構成し、お礼の言葉を実際に話すように書いている。

- 【解答類型2】は、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができています。橋本さんの話から、「メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることが書道パフォーマンスの魅力であること」以外の内容を取り上げ、自分がそれをどのように受け止めたのかが分かるように話を構成し、お礼の言葉を実際に話すように書いている。
- 【解答類型3】は、橋本さんの伝えたいことを自分がどのように受け止めたのかが分かるように表現することに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ 橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力が分かりました。

- 【解答類型4】は、橋本さんの伝えたいことを取り上げて表現することに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ お話を聞いて私も橋本さんのように頑張ろうと思いました。ありがとうございました。

- 【解答類型5】は、お礼の言葉としてふさわしい言葉遣いで実際に話すように表現することに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ 橋本さんの書道パフォーマンスの話はとても参考になった。行書で文字を書いていて、中学校の授業で学んだことが生かされていることが分かり、私も毎日の授業を大切に受けようと思った。

国語 2 説明的な文章を読む

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(細谷功・ヨシタケシンスケ「やわらかい頭の作り方 身の回りの見えない構造を解明する」による。)

(注1) P K 試合中に相手側の反則によって与えられるキックの一つ。ゴールの正面にあるペナルティマークにボールを置き、ゴールキーパーだけを相手にゴールをねらって蹴る。また、試合の勝敗が決まらないときにも、ペナルティマークからボールを蹴ることを行う。

(注2) クレーム 商品の、相手の行為や処置などに対する苦情。注文。

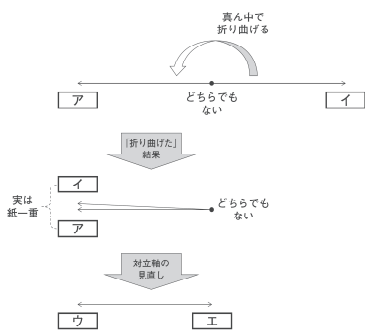
(注3) 常連 常連ある飲食店などにも来る客。

(注4) 中庸 考えや行いがどちらにもたまたまならないこと。

— 線部①「固定観念を異なる視点から見ること」とありますが、本文中に示されている具体例として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 一般には「成功」の反意語は「失敗」と見なされているが、「何か行動する」という点では同意語だといえる。
- 2 一般には「北極」の反意語は「南極」と見なされており、「両端に見える」という点でも反意語だといえる。
- 3 一般には「賛成」の反意語は「反対」と見なされているが、「自らの明確な意見がない」という点では同意語だといえる。
- 4 一般には「好き」の反意語は「嫌い」と見なされており、「対象への関心が高い」という点でも反意語だといえる。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------------|---|------------|---|---------|---|----------|
| 1 | ア | 判断を示す | イ | 判断を示さない | ウ | 提案を肯定する | エ | 提案を否定する |
| 2 | ア | 文章を追加する | イ | 文章を削除する | ウ | 情報を増やす | エ | 情報を減らす |
| 3 | ア | 一歩前進する | イ | 状況が変わる | ウ | 一歩後退する | エ | 状況が変わらない |
| 4 | ア | コンクールで入選する | イ | コンクールで落選する | ウ | 物事に挑戦する | エ | 物事に挑戦しない |



四 — 線部④「ゼミ読者の皆さんの身の回りでも探して『半分は折って』違う見方で考えてみて下さい」とありますが、次の図の

- 1 店がクレームを言った客への対応を誤ること、その客が二度と店に来なくなること。
- 2 店がクレームを言った客にうまく対応すること、その客が店の常連さんになってくれること。
- 3 客が店に対してクレームを言うことで、店が客のクレームをチャンスととらえること。
- 4 クレームを言った客が二度と店に来なくなること、その客が店の常連さんになってくれること。

三 — 線部③「連に」とありますが、何と何が「連」なのですか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ア 物事がさらに付け加わる。
- イ 一例を挙げて他の物事を推測させる。
- ウ それだけで十分である。

【意味】

- 1 厳しい環境で植物が生き残らない。
- 2 私は本さえあれば満足だ。
- 3 風が強いうえに雨さえ降ってきた。

二 — 線部②「さえ」と同じ意味で用いられているものを、次の【用例】の1から3までの中から一つ選びなさい。また、その【意味】を、あとのアからウまでの中から一つ選びなさい。

1. 出題の趣旨

- 文章の中心的部分と付加的部分とを読み分け、内容を捉えること
- 助詞の働きについて理解すること
- 文章の展開に即して内容を捉えること
- 文章の内容を捉え、書き手の考えを理解すること

これまでの全国学力・学習状況調査の結果を見ると、複数の資料から適切な情報を得てそれらと比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題があることが分かる。例えば、「平成31年度（令和元年度）

【中学校】報告書」では、「読むこと」について「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。」(P. 8) としている。

本問では、これらの課題を踏まえて、「固定観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができる」ということについて、複数の具体例を示しながら図を用いて説明している文章を取り上げ、第1学年「C 読むこと」(1)イの「文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」の指導事項を中心に出題した。設問一では、文章の中心的部分と付加的部分を読み分け、書き手の考えと具体例との関係を叙述に即して的確に捉えること、設問三では、文章の展開に即して原因と結果など情報と情報との関係に留意しながら内容を捉えることを求めている。設問四では、書き手の考えと具体例との関係を叙述に即して捉えた上で、身の回りにある別の例に当てはめて考えることを求めている。また、設問二では、助詞の働きについて理解することを求めている。これは、助詞の働きを単に知識として学習するだけでなく、実際に文章を読む際に活用し、生きて働く力として身に付けていくことが大切であることを踏まえたものである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 C 読むこと

イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。

2. 解説

設問一

趣旨

文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 《文章の解釈》

■評価の観点

読む能力

解答類型

問題番号	解 答 類 型		正答
②	1	1と解答しているもの	◎
	2	2と解答しているもの	
	3	3と解答しているもの	
	4	4と解答しているもの	
	99	上記以外の解答	
	0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1】は、文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を捉えることができている。筆者の考えを理解するためには、文章と図を結び付けながら文章全体を丁寧に読む必要がある。「固定観念を異なる視点から見ること」についての具体例として、筆者は、「成功と失敗は一般には何らかの結果の『両極』であると考えられるためにこれらが反意語と見なされる」と述べた上で、図を示しながら、「しかし、何もしなければ、『成功でも失敗でもない』状況がずっと続く」と説明し、「何か行動する」という点で『成功』と『失敗』は実は紙一重の『同意語』で」と述べている。

○ 【解答類型 2～4】は、文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を捉えることに課題がある。「固定観念を異なる視点から見ること」について、本文中に示されている具体例と結び付けて捉えることができていない。

- ・ 選択肢 2 については、「固定観念」について正しく述べているが、「異なる視点から見ること」については触れていない。「北極」と「南極」の関係を「異なる視点から見ること」について、筆者は、「文字通り両極のように見える北極と南極が実は気候的にも似てい」と述べている。
- ・ 選択肢 3 については、「固定観念」について正しく述べているが、「異なる視点から見ること」については正しく述べていない。「賛成」と「反対」の関係を「異なる視点から見ること」について、筆者は、『『賛成』と『反対』は『明確に自分の意見を持っている』という点でむしろ『同意語』』であると述べている。
- ・ 選択肢 4 については、「固定観念」について正しく述べているが、「異なる視点から見ること」については正しく述べていない。「好き」と「嫌い」の関係を「異なる視点から見ること」について、筆者は、『『好き』と『嫌い』は『対象への関心が高い』という点では同意語』であると述べている。

(参考)

○関連する問題（設問一，三，四共通）

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H24A ⁶ 一	「このような現象」が何と呼ばれているかを本文中から抜き出す	69.5%	P. 30～P. 32	P. 146～P. 150
H26B ² 一	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	31.7%	P. 59～P. 64	P. 67～P. 72
H27B ² 二	雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する	68.4%	P. 63～P. 70	P. 67～P. 74
H28B ² 二	情報カードにまとめる内容として適切なものを選択する	64.6%	P. 60～P. 66	P. 69～P. 74
H30A ⁵ 二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する	60.0%	P. 28～P. 31	P. 40～P. 43
H30B ¹ 一	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	46.6%	P. 56～P. 61	P. 66～P. 72
H30B ¹ 三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	13.9%	P. 56～P. 61	P. 66～P. 72
H31 ¹ 二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	62.2%	P. 12～P. 23	P. 20～P. 34

ここでは、関連する問題の中から比較的課題が見られるものを示している。

設問二

趣旨

助詞の働きについて理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ

(エ) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

解答類型

問題番号	解答類型		正答	
②	二	1	【用例】の欄に2, 【意味】の欄にウと解答しているもの	◎
		2	【用例】の欄に2と解答し, 【意味】の欄にウと解答していないもの	
		3	【意味】の欄にウと解答し, 【用例】の欄に2と解答していないもの	
		4	【用例】の欄に1, 【意味】の欄にイと解答しているもの	
		5	【用例】の欄に3, 【意味】の欄にアと解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1】は、「理解さえ得られれば」の「さえ」が「それだけで十分である」という意味で用いられていることを文脈から捉えた上で、同じ意味で用いられている用例について理解できている。
- 【解答類型2】は、「理解さえ得られれば」の「さえ」の使い方と同じ用例である「私は本さえあれば満足だ」を選択しているが、「それだけで十分である」という意味を文脈から捉えることができていない。
- 【解答類型3】は、「理解さえ得られれば」の「さえ」が「それだけで十分である」という意味で用いられていることを文脈から捉えることはできているが、この場合の「さえ」を別の用例に当てはめて考えることができていない。
- 【解答類型4, 5】は、用例における助詞の意味とその適切な使い方について、【用例】の1と【意味】のイや【用例】の3と【意味】のアが対応していることは理解できているが、「理解さえ得られれば」の「さえ」がどのような意味で用いられているかを正しく捉えた上で、関連させて考えることができていないものと考えられる。

設問三

趣旨

文章の展開に即して内容を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

イ 文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 《文章の解釈》

■評価の観点

読む能力

解答類型

問題番号	解 答 類 型		正答	
②	三	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1～3】は，文章の展開に即して内容を捉えることに課題がある。筆者が本文中で述べていることに着目することはできているが，「逆に常連さんにできるチャンスがある」という内容を正しく理解した上で，「常連さんにできる」ことと何が「逆」なのかを捉えることができているものと考えられる。
- ・ 選択肢1については，「店がクレームを言った客への対応を誤ること」と「その客が二度と店に来なくなること」は，原因と結果の関係であり，「逆」の関係にはなっていない。
 - ・ 選択肢2については，「店がクレームを言った客にうまく対応すること」と「その客が店の常連さんになってくれること」は，原因と結果の関係であり，「逆」の関係にはなっていない。
 - ・ 選択肢3については，「客が店に対してクレームを言って困らせること」と「店が客のクレームをチャンスととらえること」は，客のクレームに対して店が困ったりチャンスと受け止めたりするという点では反対の内容とも考えられるが，本設問で問うている「逆」の関係には当てはまらない。
- 【解答類型4】は，文章の展開に即して内容を捉えることができている。「対応を誤れば『二度と来ない』ことになってしまいます」と「フォローをすれば，逆に常連さんにできるチャンスがある」は，ともにクレームに対する店の対応とそれがもたらす客の反応であり，原因と結果の関係になっている。このことを踏まえ，「二度と来ない」という結果と「常連さんにできる」という結果が「逆」の関係であることを捉えることができている。

設問四

趣旨

文章の内容を捉え、書き手の考えを理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 《文章の解釈》

■評価の観点

読む能力

解答類型

問題番号	解 答 類 型		正答	
②	四	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

○ 【解答類型1～3】は、文章の内容を捉えた上で、書き手の考えを別の具体例に当てはめて考えることに課題がある。ここでは、「固定観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができる」ことについて、どのような具体例がどのように示されているかを叙述に即して捉えた上で、本文中には示されていない別の具体例と結び付けて考える必要がある。

- ・ 選択肢1については、「ア 判断を示す」と「イ 判断を示さない」は一般には「両極」にあると考えられるものであるが、図のように折り曲げても、それらの同意語は「ウ 提案を肯定する」にはならない。
- ・ 選択肢2については、「ア 文章を追加する」と「イ 文章を削除する」は一般には「両極」にあると考えられるものであるが、図のように折り曲げても、それらの同意語は「ウ 情報を増やす」にはならない。
- ・ 選択肢3については、「ア 一歩前進する」と「イ 状況が変わる」は「両極」にあるとは考えられない。

○ 【解答類型4】は、文章の内容を捉え、書き手の考えを理解している。「ア コンクールで入選する」と「イ コンクールで落選する」は一般には「両極」にあると考えることができ、図のように折り曲げて「対立軸」を見直すと、「ウ 物事に挑戦する」と「エ 物事に挑戦しない」の二極になるという見方ができる。

○ 選択肢1～3については、次のような言葉の組合せであれば正答になる。

- ・ 選択肢1が正答になる場合の例
ア 提案を肯定する, イ 提案を否定する, ウ 判断を示す, エ 判断を示さない
- ・ 選択肢2が正答になる場合の例
ア 文章を追加する, イ 文章を削除する, ウ 文章を見直す, エ 文章を見直さない
- ・ 選択肢3が正答になる場合の例
ア 一歩前進する, イ 一歩後退する, ウ 状況が変わる, エ 状況が変わらない

3. 出典等

細谷功・ヨシタケシンスケ『やわらかい頭の作り方 身の回りの見えない構造を解明する』
(2015年3月 筑摩書房)による。

国語 3 俳句を創作する

3

川口さんは、「卒業」をテーマに俳句を創作しています。次は、川口さんが「創作している俳句」とその俳句の□□に入れる「言葉の候補」、川口さんが見ている「辞典の記述」です。あなたなら、「言葉の候補」の中のどの言葉を選びますか。AからCまでの中から一つ選び、「言葉の候補」の中のどの言葉を選んででもかまいません。それを選んだ理由を、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【創作している俳句】

卒業に こぼれる涙 □□と

【辞典の記述】

ほろほろ ①涙や葉・花びらといった小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる様子。②山鳥・雉・鳩といった鳥の鳴く声。

ほろほろ ①大粒の涙をこぼす様子。かたまりや粒などが、続けてこぼれ落ちたり崩れたりする様子。②物がひどく破れたり崩れたりしている様子。

ほろほろ ①涙や小さい粒状のものが、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子。②ひとかたまりになっていたものが水分を失って、ばらばらになる様子。

【言葉の候補】

A ほろほろ
B ぼろぼろ
C ぼろぼろ

条件1 選んだ「言葉の候補」について、「辞典の記述」の中のとどのような意味に着目したのかを、他の「言葉の候補」の意味との違いが分かるように書くこと。

条件2 選んだ「言葉の候補」を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを、条件1で取り上げた意味をもとに具体的に書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

【言葉の候補】

A
B
C

← 選んだ「言葉の候補」を塗りつぶしなさい。

Blank writing area for the student's response, consisting of several horizontal lines.

1. 出題の趣旨

- ・ 自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くこと

平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査における学校質問紙調査では、「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか」という質問に「よくしている」、「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした学校の割合は、これまでで最も高い94.9%であった。国語科においても、各領域の指導について、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、学習指導要領の内容の(2)に示された言語活動例などを通じた指導が全国で行われていると考えられる。しかし、例えば「平成31年度（令和元年度）【中学校】報告書」では、「書くこと」について、取り出した情報を「自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすいように書くことに課題がある」（P. 8）としている。様々な言語活動を通じた学習の中では、文章を書く目的や意図をより意識し、読み手に分かりやすく書くように指導する必要がある。

本問では、これらの課題を踏まえて、「卒業」をテーマに俳句を創作する場面を設定し、第2学年「B 書くこと」(1)ウの「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」の指導事項について出題した。俳句に用いる言葉を複数の候補の中から選び、その言葉を選んだ理由を書くことを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第2学年〕 B 書くこと

ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。

〔第2学年〕 B 書くこと

イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

2. 解説

設問

趣旨

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 B 書くこと

ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。 《記述》

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

書く能力

解答類型

問題番号	解答類型	正答
3	<p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。</p> <p>① AからCまでのいずれか一つの【言葉の候補】を選んで、その記号を塗り潰している。</p> <p>② 選んだ【言葉の候補】について、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、他の【言葉の候補】の意味との違いが分かるように書いている。</p> <p>③ 選んだ【言葉の候補】を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを、②で取り上げた意味を基に具体的に書いている。</p> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 私は「ほろほろ」の「小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目しました。「ほろほろ」には「大粒の涙をこぼす」、「ほろほろ」には「一粒ずつ続けてこぼれ落ちる」などの意味がありますが、私は、卒業式の厳かな雰囲気の中で静かに涙を流す様子を表現したいので、「音もなく」という意味がある「ほろほろ」を選びました。(解答類型1) ・ B 音もなく涙を流す様子を表す「ほろほろ」や、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子を表す「ぼろぼろ」ではなく、大粒の涙を流す様子を表す「ぼろぼろ」という言葉を選んだ。なぜなら、三年間ともに過ごした仲間たちと別れる悲しみの深さを、涙の大きさを表したいからだ。(解答類型1) ・ C 私は「ぼろぼろ」という言葉だけにある「一粒ずつ続けてこぼれ落ちる」という意味に着目しました。私は、中学校生活のたくさんの出来事の一つずつ思い出している卒業生の心情をこの俳句で表現したいと考えました。(解答類型2) 	
1	条件①, ②, ③を満たしているもののうち、選んでいない【言葉の候補】の意味に触れて解答しているもの	◎
2	条件①, ②, ③を満たしているもののうち、選んでいない【言葉の候補】の意味に触れずに解答しているもの	◎
3	条件①, ②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	
4	条件①, ③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	
99	上記以外の解答	
0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1】は、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができている。本問では、【創作している俳句】の に入れる言葉の一つを選び、選んだ【言葉の候補】について、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、他の【言葉の候補】の意味との違いが分かるように書く必要がある。実際の言語活動の中で、例えば、候補に挙げた複数の言葉がもつ微妙な意味の違いについて取り上げたい場合には、本解答類型のように、選んだ【言葉の候補】の意味に触れるとともに、選んでいない【言葉の候補】の意味にも触れて書くことが効果的である。

- 【解答類型2】は、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができている。実際の言語活動の中で、例えば、自分がなぜその言葉を選んだのかを簡潔に説明したい場合には、本解答類型のように、複数の【言葉の候補】について吟味した過程については触れず、選んだ【言葉の候補】がもつ特徴的な意味のみを取り上げるなど、必要かつ最小限の情報を示して書くことが効果的である。
- 【解答類型3】は、選んだ【言葉の候補】について、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、他の【言葉の候補】の意味との違いが分かるように書くことはできているが、選んだ【言葉の候補】を用いてどのような情景や心情を表現できると考えたのかを書くことに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

・ A

「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目した。「ぼろぼろ」や「ぼろぼろ」には、「音もなく」という意味は示されていない。「ほろほろ」を使うことで情景や心情がより伝わりやすくなると思った。

このように解答した生徒は、【言葉の候補】の意味の違いについて書いているが、情景や心情を具体的に書いていない。

(例)

・ C

私は「ぼろぼろ」を選びます。なぜなら、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子を表す言葉だからです。「ほろほろ」には「音もなく続けてこぼれ落ちる」、「ぼろぼろ」には「大粒の涙をこぼす」などの意味がありますが、「一粒ずつ」という意味は、「ぼろぼろ」にしかありません。

このように解答した生徒は、【言葉の候補】の意味の違いについてのみ書いており、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを書いていない。

- 【解答類型4】は、選んだ【言葉の候補】を用いてどのような情景や心情を表現できると考えたのかを具体的に書くことはできているが、選んだ【言葉の候補】について、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、他の【言葉の候補】の意味との違いが分かるように書くことに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

・ B

卒業式の最中に、大切な仲間たちと過ごした三年間の様々な出来事を思い出し、涙があふれ出てくる様子を表現するために、涙がこぼれるという意味が含まれている「ぼろぼろ」を選びました。

このように解答した生徒は、「涙がこぼれる」という三つの【言葉の候補】に共通した意味しか取り上げていない。

(例)

・ C

私は「ぼろぼろ」という言葉に着目した。こらえようとしてもこらえきれない悲しさを伝えられると考えた。

このように解答した生徒は、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを書いていない。

3. 出典等

【辞典の記述】は、浅野鶴子・金田一春彦『擬音語・擬態語辞典』(1978年4月 角川書店)、阿刀田稔子・星野和子『正しい意味と用法がすぐわかる 擬音語・擬態語使い方辞典 第2版』(1995年10月 創拓社)、山口仲美編『擬音語・擬態語辞典』(2015年5月 講談社)などを参考にした。

国語 4 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

4 竹内さんはスピーチで、自分が読んだ文学作品について、冒頭を音読しながら紹介しようと考えています。竹内さんが紹介しようとしている文学作品の冒頭を取り上げた次の一から三までの各問いに答えなさい。

一 次の——線部①から③までの漢字の正しい読みをひらがなでいねいに書きなさい。

それは、寒い日でありました。指のさきも、鼻の頭も、赤くなるような寒い日でありました。吉雄は、いつものように、朝早くから起きました。

「お母さん、寒い日ですね。」と、こあいさつをして震えていました。

「火鉢に、火がとつてあるから、おあんなさい。」と、お母さんは、もう、朝のご飯の支度をしながらいわれました。

吉雄は、火鉢の前について、すわって手を暖めました。家の外には、風が吹いていました。

（小川未明「ある日の先生と子供」による。）

二 次の——線部①と——線部②をそれぞれ現代仮名遣いに直し、全てひらがなでいねいに書きなさい。

宗助は先刻から縁側へ坐蒲団を持ち出して日当りのよささうな所へ気楽に胡坐をかいて見たが、やがて手に持つてゐる雑誌を放り出すと共に、ごろりと横になった。

（夏目漱石「門」による。）

三 次の——線部①から④までのうち、動作をしている人（もの）が異なるものをつ選びなさい。

（井上靖「しろばんば」による。）

（井上靖「しろばんば」による。）



竹内さん

1. 出題の趣旨

- ・ 文脈に即して漢字を正しく読むこと
- ・ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと
- ・ 文の成分の照応について理解すること

漢字の指導については、社会生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、中学校3年間を通して常用漢字の大体を読めるようにするとともに、学年別漢字配当表に配当された漢字を使い慣れるようにする必要がある。漢字を読む能力としては、漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことができるようにすることが求められる。そのため、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読みの習熟と応用を図ることが大切である。また、字形と音訓、意味と用法、語の成り立ち、熟語の構成などについて必要に応じて指導し、例えば、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目して、読みを類推することができるように指導することも大切である。

また、歴史的仮名遣いなどの文語のきまりについては、生徒の興味・関心を大切にしながら、教材に即して指導したり、必要があれば取り立てて指導したりすることが大切である。古典を取り上げる際には、繰り返し音読して、生徒自らが古典特有のリズムに気付くことを重視し、五音、七音の繰り返しなどの特徴について理解を深める必要がある。また、古典だけでなく、身近な文章の中にある歴史的仮名遣いについて、言葉の意味を考えながら正しく読むことを通して、文や文章についての理解を深めることも重要である。

文の中の文の成分の順序や照応、文の構成を考えることについては、主語、述語、修飾語などの並ぶ順序や、主語と述語の照応、修飾語と被修飾語の照応などについて理解を深めるとともに、語順や語の照応によって表現がどのように変わってくるかを様々な文型について考えさせ、文の成分の順序や照応に関心をもたせることが大切である。

このような〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)に示された「ア 伝統的な言語文化に関する事項」、「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ 漢字に関する事項」については、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、それぞれの事項について指導することが大切である。

本問では、スピーチで、自分が読んだ文学作品について、冒頭を音読しながら紹介するための準備を行っている場面を設定した。文脈に即して漢字を正しく読んだり、文の成分の照応を考えたりすることに加え、歴史的仮名遣いが用いられている作品について、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことを求めている。

2. 解説

設問一

趣旨

文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ

(ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

解答類型

問題番号	解 答 類 型			正答
④	一 ①	1	「ふる（えて）」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	一 ②	1	「したく」と解答しているもの	◎
		2	「したく」のうち「し」だけ正しく解答しているもの	
		3	「したく」のうち「たく」だけ正しく解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	一 ③	1	「ふ（いて）」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- ① 【解答類型1】は、「震（えて）」を文脈に即して正しく読むことができている。「震」は、学年別漢字配当表以外の常用漢字である。
- ② 【解答類型1】は、「支度」を文脈に即して正しく読むことができている。「支」は、小学校第5学年の配当漢字である。「度」は、小学校第3学年の配当漢字であるが、「タク」という読みは中学校で学習する。
 【解答類型2】は、「支」について読むことはできているが、「支度」という語句の意味を理解して正しく読むことに課題がある。
 【解答類型3】は、「度」について読むことはできているが、「支度」という語句の意味を理解して正しく読むことに課題がある。
- ③ 【解答類型1】は、「吹（いて）」を文脈に即して正しく読むことができている。「吹」は、学年別漢字配当表以外の常用漢字である。

設問二

趣旨

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア

(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

解答類型

問題番号	解 答 類 型			正答
4	二 ①	1	「よさそうな」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	二 ②	1	「いる」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- ① 【解答類型1】は、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直して読むことができている。「よささうな」の「さう」は、現代仮名遣いでは「そう」であることが理解できている。
- ② 【解答類型1】は、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直して読むことができている。「ある」の「ゐ」は、現代仮名遣いでは「い」であることが理解できている。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H20A[6]ハイ ②	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（み たり）	82.0%	P. 22～P. 27	P. 163～P. 175
H24A[7]七2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（あ らはす）	93.0%	P. 34～P. 49	P. 151～P. 176
H25A[8]七2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（に ほふ）	83.8%	P. 38～P. 48	P. 47～P. 57
H26A[8]五1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（ま うけて）	80.7%	P. 41～P. 50	P. 47～P. 57
H28A[9]七1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（追 ひし）	80.5%	P. 42～P. 52	P. 51～P. 62
H30A[8]六2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（と ほさざるなし）	63.4%	P. 39～P. 53	P. 51～P. 64

設問三

趣旨

文の成分の照応について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ

(ウ) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
4	三	1	①と解答しているもの	◎
		2	②と解答しているもの	
		3	③と解答しているもの	
		4	④と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1, 2, 4】は、文の成分の照応についての理解に課題がある。「叫びながら」、「走ったり」、「追いかけて」が「(村の) 子どもたち」の動作であることが理解できていないものと考えられる。
- 【解答類型3】は、文の成分の照応について理解できている。「浮遊している」のは「(白い小さい) 生きもの」である。

3. 出典等

一は、小川未明「ある日の先生と子供」(『定本小川未明童話全集4』1977年2月 講談社)、
 二は、夏目金之助「門」(『定本 漱石全集 第六巻』2017年5月 岩波書店)、三は、井上靖『しろばんば』(2002年4月 偕成社)による。

IV 解答用紙（正答（例））

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅲ 調査問題の解説」の「解答類型」等に記載していますので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも御参照ください。

■ 全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ④ 国語 **ホモト**

解答欄はウラにもあります。

1 一 ① ③ ④

二 ① ② ④

三 **【例】** 橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力がよく分かりました。私たちも、力を合わせて学校行事などに取り組み、充実感を味わいたいです。

2 一 ② ③ ④

二 **【用例】** ① ③

【意味】 ⑦ ④

三 ① ② ③

四 ① ② ③

※「組」は、下の例のように記入し、マーク欄を塗りつぶしてください。

例：1組の場合
組：

生徒記入欄		整理番号	
組	性別	男	女
①	<input checked="" type="radio"/>	①	①
②	<input type="radio"/>	②	②
③	<input type="radio"/>	③	③
④	<input type="radio"/>	④	④
⑤	<input type="radio"/>	⑤	⑤
⑥	<input type="radio"/>	⑥	⑥
⑦	<input type="radio"/>	⑦	⑦
⑧	<input type="radio"/>	⑧	⑧
⑨	<input type="radio"/>	⑨	⑨

答案番号

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅲ 調査問題の解説」の「解答類型」等に記載していますので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも御参照ください。

■ 全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ④ 国語 **ウラ**

← 選んだ【言葉の候補】を塗りつぶしなさい。

3

【言葉の候補】

<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
----------------------------------	-----------------------	-----------------------

【例】 私は「ほろほろ」の「小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目しました。「ほろほろ」には「大粒の涙をこぼす」、「ほろほろ」には「一粒ずつ続けてこぼれ落ちる」などの意味がありますが、私は、卒業式の厳かな雰囲気の中で静かに涙を流す様子を表現したいので、「音もなく」という意味がある「ほろほろ」を選びました。

4 一

①	ふる	ええ
---	----	----

②	したく
---	-----

③	ふ	いて
---	---	----

二

①	よさそうな	【例】	よさそうな
---	-------	-----	-------

②	ある	【例】	いる
---	----	-----	----

三

①	②	<input checked="" type="radio"/>	④
---	---	----------------------------------	---

解答欄はオモテにもあります。

V 点字問題 (抜粹)

点字問題は、通常問題と同様の趣旨・内容で作成している。ただし、点字を使用して学習する児童生徒の情報取得の特性や点字による表現方法等を考慮し、児童生徒が調査問題で問われている内容及び解答に必要な情報を的確に把握し、問題の趣旨に沿った解答に臨むことができるように、例えば、次のような配慮を行っている。

(1) 問題文などの記述及びレイアウト等について

必要に応じて、文章や図表等の記述を変更したり、提示する順序を入れ替えたり、ページ配置を変更したりするなどの調整を行う。

(2) 図やグラフの提示の仕方について

提示する情報の精選を行った上で、表などに置換したり、必要かつ可能なものは点図（点を用いて示した図）で示したりするなど、提示方法の変更・調整を行う。

(3) 出題形式の変更及び代替問題について


児童生徒の学習内容や生活経験等を考慮し、通常問題の内容をそのまま点字化して出題することが適当ではない問題については、出題の趣旨等を踏まえた上で、出題形式の変更や代替問題の作成を行う。

なお、上記のような配慮に伴い、解答類型の調整を行った問題については、P. 48～P. 49に問題及び解答類型（点字問題用）を示している。

<点字問題における具体的な配慮例>

【通常問題】

1



場面②で映している画面

場面③で映している画面

場面①

場面②

場面③

中国-2



場面①

場面②

場面③

中国-1

【点字問題】

1

本問では、主に次のような配慮を行った。

- 通常問題では、書道部が行った書道パフォーマンスの動画を視聴するという設定で、問題を作成した。しかし、点字で学習する生徒の生活経験等を考慮し、放送部が作成したラジオドラマの音源を聞くという設定に変更した。

<点字問題（墨点字版）>

1.1

第一中学校の三年生は、卒業生から学ぶ会を開いています。その中で、高校生の橋本さんが、ラジオドラマについて音源を用いて話しています。次の「橋本さんの話」（場面A～C）を読んで、p5～7の問い1.～3.に答えなさい。

1.2

「皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する放送部で行っているラジオドラマの制作の魅力についてお話します。ラジオドラマは、複数のメンバーで一つの作品を作ります。これが、ラジオドラマの制作の魅力だと私は思います。早速ですが、九月の文化祭で私たちが発表したラジオドラマをお聞きください。」
 （ラジオドラマを途中まで聞く。）

1.3

「ここで一度止めます。この作品で私は効果音を担当しました。各場面にあった効果音を探してくることは、とても大変です。台詞だけでもストーリーは分かりますが、効果音によってより臨場感のあるラジオドラマを作ることができます。演じる人も効果音によって演技しやすくなります。それでは、効果音に注目してお聞きください。」
 （ラジオドラマを最後まで聞く。）

1.4

「いかがでしたか。このラジオドラマの内容は、聞き終わった後お客様が笑顔になれるようにと、メンバーで話し合って選びました。よい作品にするためには、全員で協力し、ことが大切です。そのために、他の人の台詞を聞いてそれぞれが台詞の言い方や効果音のタイミングなどを考えながら、みんなで何度も練習しました。このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、ラジオドラマの魅力が伝わり、興味をもってもらえるとうれしく思います。」

<点字問題（活字版）>

1

第一中学校の三年生は、卒業生から学ぶ会を開いています。その中で、高校生の橋本さんが、ラジオドラマについて音源を用いて話しています。次の「橋本さんの話」（場面A～C）を読んで、p5～7の問い1.～3.に答えなさい。

1.2 「橋本さんの話」

場面A

「皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する放送部で行っているラジオドラマの制作の魅力についてお話します。ラジオドラマは、複数のメンバーで一つの作品を作ります。これが、ラジオドラマの制作の魅力だと私は思います。早速ですが、九月の文化祭で私たちが発表したラジオドラマをお聞きください。」
 （ラジオドラマを途中まで聞く。）

1.3

場面B

「ここで一度止めます。この作品で私は効果音を担当しました。各場面にあった効果音を探してくることは、とても大変です。台詞だけでもストーリーは分かりますが、効果音によってより臨場感のあるラジオドラマを作ることができます。演じる人も効果音によって演技しやすくなります。それでは、効果音に注目してお聞きください。」
 （ラジオドラマを最後まで聞く。）

1.4

場面C

「いかがでしたか。このラジオドラマの内容は、聞き終わった後お客様が笑顔になれるようにと、メンバーで話し合って選びました。よい作品にするためには、全員で協力し、ことが大切です。そのために、他の人の台詞を聞いてそれぞれが台詞の言い方や効果音のタイミングなどを考えながら、みんなで何度も練習しました。このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、ラジオドラマの魅力が伝わり、興味をもってもらえるとうれしく思います。」

中国(点字) - 2

<点字問題において解答類型の変更，調整等を行った問題>

【点字問題】 4 1.

√ 4.2 1. 次の傍線部 (1) ~ (3) の点字の書き方に関して，まちがっている場合には正しく書き直し，合っている場合には「まる」と書きなさい。

(1) ℓ10

(2) 下ℓ6

(3) 下ℓ3

それは，寒い日でありました。指のさきも，鼻の頭も，(1) 赤くなる ような寒い日でありました。^{よしお}吉雄は，いつものように，朝早くから起きました。

「お母さん，寒い日ですね。」と，ごあいさつをして震えていました。「火鉢に，火が(2) とってあるから，おあんなさい。」と，お母さんは，もう，朝のご飯の支度をしながら(3) いわれました。

(^{おがわ みめい}小川未明「ある日の先生と子供」による。)

問題番号		解答類型		正答
4	1. (1)	1	「あかく なるよーな」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	1. (2)	1	「とって あるから」と解答しているもの	◎
		2	— (該当なし)	
		3	— (該当なし)	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	1. (3)	1	「まる」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

VI 擴大文字問題 (拔粹)

拡大文字問題は、通常問題と同様の趣旨・内容で作成している。ただし、弱視児童生徒の見え方に伴う負担等を軽減するため、通常問題で使用しているA4判の用紙をB4判の大きさに拡大するとともに、以下のような配慮を行っている。

- (1) 原則として文字の大きさを22ポイントとし、UDデジタル教科書体とする。
- (2) 十分な字間及び行間等に設定する。
- (3) 必要に応じて、拡大率やレイアウト等を変更する。

<拡大文字問題における具体的な配慮例>

【通常問題】 1

書道パフォーマンス

場面①

皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する書道部で行っている書道パフォーマンスの魅力についてお話しします。書道パフォーマンスでは、複数のメンバーで一つの作品を書き上げます。これが、書道パフォーマンスの魅力だと私は思います。

早速ですが、四月の新人生歓迎会で私たちが行った書道パフォーマンスの様子をご覧ください。

← 書道パフォーマンスの動画を途中まで視聴する。

【橋本さんの話】

1 第一中学校の三年生は、卒業生から学ぶ会を開いています。その中で、高校生の橋本さんが、書道パフォーマンスについて動画を聞いて話しています。次の「橋本さんの話」、「場面②」で映している画面、「場面③」で映している画面を読んで、あとの問いに答えなさい。

中国-1

1では、以下のような配慮を行い、次のページのように変更・調整した。

【橋本さんの話】において、話の内容を捉えやすくするために枠線を取るとともに、イラストの位置を変更した。

【橋本さんの話】

場面1

皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。

今日は、私が所属する書道部で行っている書道

パフォーマンスの魅力についてお話しします。

書道パフォーマンスでは、複数のメンバーで

一つの作品を書き上げます。これが、書道

パフォーマンスの魅力だと私は思います。

【場面③で映している画面】



【場面②で映している画面】



場面③

いかがでしたか。今映し出されている作品の言葉は、メンバーで話し合い、新入生を花のつぼみにたとえ、笑顔の花が咲くことを願って選びました。それから、一つの作品として文字の調和をとることを大切にしました。メンバー五人が、それぞれ自分の書きたいように書いては、よい作品にはなりません。そのため、中学校の授業で学んだ行書の特徴を確認しながら、何度も練習しました。

このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、書道パフォーマンスの魅力が伝わり、興味をもってもらえるとうれしく思います。

←

書道パフォーマンスの動画を最後まで視聴する。

場面②

ここで一度止めます。書道パフォーマンスでは、このように教室の半分くらいのもとも大きな紙を使います。このとき私は、真ん中の文字を担当しました。私が使っている筆は墨を吸うとかなりの重さになり、文字を書くのがとても大変です。他のメンバーも皆、それぞれ担当する文字に集中し、体全体を使って書いています。それでは、私たちの動きに注目して、作品が完成するまでの様子をご覧ください。

中国 - 2

また、以下のような配慮を行い、次のページのように変更・調整した。

通常問題では、【橋本さんの話】（場面②と場面③）と【場面②で映している画面】、【場面③で映している画面】を同じページ上に配置しているが、拡大文字問題では内容を捉えやすいよう、次のページのように割り付けた。

<div data-bbox="258 389 699 719" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="703 389 730 629">【場面2で映している画面】</p> <p data-bbox="258 1066 320 1088">中国-4</p>	<p data-bbox="1286 427 1313 871">← 書道パフォーマンスの動画を途中まで視聴する。</p> <p data-bbox="1214 389 1238 450">場面2</p> <p data-bbox="951 389 1198 1048">ここで一度止めます。書道パフォーマンスでは、このように教室の半分くらいのとても大きな紙を使います。このとき私は、真ん中の文字を担当しました。私が使っている筆は墨を吸うとかかなりの重さになり、文字を書くのがとても大変です。他のメンバーも皆、それぞれ担当する文字に集中し、体全体を使って書いています。それでは、私たちの動きに注目して、作品が完成するまでの様子をご覧ください。</p> <p data-bbox="1286 1066 1348 1088">中国-3</p>
--	---

<div data-bbox="264 1314 655 1608" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="660 1314 687 1554">【場面3で映している画面】</p> <p data-bbox="703 1314 730 1778">伝わり、興味をもってもらえるとうれしく思います。</p> <p data-bbox="258 1991 320 2013">中国-6</p>	<p data-bbox="1286 1352 1313 1796">← 書道パフォーマンスの動画を最後まで視聴する。</p> <p data-bbox="1214 1314 1238 1375">場面3</p> <p data-bbox="951 1314 1198 1973">いかがでしたか。今映し出されている作品の言葉は、メンバーで話し合い、新入生を花のつぼみにたとえ、笑顔の花が咲くことを願って選びました。それから、一つの作品として文字の調和をとることを大切にしました。メンバー五人が、それぞれ自分の書きたいように書いていては、よい作品にはなりません。そのため、中学校の授業で学んだ行書の特徴を確認しながら、何度も練習しました。</p> <p data-bbox="863 1314 935 1973">このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、書道パフォーマンスの魅力が</p> <p data-bbox="1286 1991 1348 2013">中国-5</p>
--	---



本書の一部または全部を無断で転載、複製することを禁じます。